金沢半山麓寺院群の景観特性(2)

Characteristic of the Townscape at Utatsu-Sanroku Temples District in Kanazawa (2)

黒川 隆人
KUROKAWA Taketo
金沢美術工芸大学

坂本 兼之
SAKAMOTO Hideyuki
金沢美術工芸大学

Abstract: Kanazawa-shi deals with a save of a row of houses along a city street scene as one of a city with a few several that did not receive the damage of the Second Great War positively.

The area that this study intends for has the historic row of houses along a city street where a temple group and a house in the town coexisted well and investigates it so that Kanazawa-

shi appoints here ward as traditional buildings preservation district.

On examination, We extracted the scene characteristics of street spaces as follows.

1. Eye stops
2. Long stone stairways to the main gate of Buddhist temples and Shinto shrines
3. Zigzag roads
4. Skylines of green
5. Views to look down at each house

Key Word: Landscape, Townscape, Preservation district, Kanazawa-shi

1. 研究の目的

金沢市は第2次大戦の被災を受けなかった数少ない主要地方都市として、町並み景観の保存に積極的に取り組んできた。本研究は「金沢市における伝統環境の保存および美しい景観の形成に関する条約」（以下景観条約）に基づく伝統環境保存地区に指定されており、「文化財保護法」に基づく重要伝統的建造物群保存地区「東山寺町地区」および「金沢市こまちみな保

存条約」に基づくこまちみな保存地区「旧國宮町地区」に隣接している。

本研究は金沢市が当該地区を伝統的建造物群保存地区として指定すべく平成16年度より金沢大学、金沢工業大学と本学との協同で調査研究を行っているものである。

2. 複雑な地形に由来する景観

一口に卵形山麓というが、地形的には、卵形山山塊の山脚にいくつもの谷の入り込みがあり、その複雑な地形から来る多様な景観を持っている。すなわち、卵形山に向かってゆるやかに上る坂道と、斜面が急傾斜になってからの長い石段を取る東西

方向の道のほか、北側街路に平行した南北方向の道もまた尾根

筋の末尾の入り込みにより高低差のある道路を形成しているか

らである。これに加えて、山に向かう東西方向は谷筋を分け

入る道と、景観にそって流れ込む用水、曲がりくねって地区内

を流下していることである。山脈でこれらの道を結ぶトラン

プル道もまた地区特有のものである。これらが組み合わされて、

複雑だが親しみのある魅力的な景観を形成しているのです。

また卵形山の樹林だけでなく寺社の数地に生えている高木に

多く、緑豊かな2種類のスカイラインを見ることも地形がもつ

る特有の大きな特色である。

なお、道路の複雑さは延宝の頃からほとんど変わっていない。

文化8年(1811)の町絵図によれば、西養寺門前等に御所庭

と囲まれた場所が何方所も見られるが、これは延宝期や寛文

期の地図では百姓地と記載されていて、明らかに、もはや田畑

であった場所である。水路の曲がり具合からすると、水路であ

った可能性も高い。これが底田であったとすれば、宅地や寺

社地になった場所は地に開まれた土地区の形、そのまま相対諸

地の対象となったわけであり、道路というのは残余地を基本に

作られたものであって、いわば「ネガティブ」な道なのであ

る。

3. 景観陰陽要因

(a) 隠景観を陰陽とする要因

区域を特色づける眺望景も山門の内側から見ると、金沢

駅を中心とする高層ビル群が顕著な景観を形成されつつ追

ってくる。これら近代的景観創出区域の建築物に対して

は、高さ、色彩、形態（規模を含む）の全てについて眺望

景観保護の観点から再検討が必要である。近後の都市の色

彩はこの区域には相互していないので一定の規制が必要であ

る。またカラー映画は色彩と形態（塗装、配置等）の両方で

制限が必要に思われる。（写真1）

直接眺望を遮るものとしては他に植生の変化がある。植

木の表生化や枝葉によってせっかくの眺望が遮られてい

る例があるが、眺望の観点からの入手必要である。（写

真2）
もに一定の規格を定めることによって阻害効果を和らげることが可能に思われる。
このゴミ投棄禁止看板設置箇所は、今回の寺院群指定（予定）区域を外れているが、左に見える道路は宗楽寺、
広昌寺への参詣道でもあり、線引きに対する再検討は、こうした事態を避けるための何らかの対策が必要に思
われる。
場遠いものとして、写真5は心蓮寺の門前に建っている
鈴が鳴ったロータリーに覆われた建物である。住民ではないが、
このような場所に立地することが場遠いであることは明ら
かである。なお、一般住宅においても表面の外壁が鈴が鳴った
ロータリーに覆われた例を多く目にするが、駐車場による虫食い
現象が、その状況に起因を含んでいる。
写真6のログハウスは神社境内裏手に設置されたものだ
が、宗楽寺、広昌寺への参詣道にあたる道路から見ると
こちらから場遠い印象は否めない。この他、寺社境内には
ガレージを設置したものも少なくないが、やはり遠い場
はまねがたい。一般住宅にも町並みの性格から著し
く外れたデザインのものがあり一定の規制の必要があ
う。
道の標識は安全上必要な処置といえ写真7のように寺院
の背後にみえるのは異様な風景である。ひそし家並街から
もみえるが、標識の景観設計が求められる。写真8は生活イ
ンプラの一住宅の空調機器に付随する室外機である。今
日では町中の至る所で目に入り、寺社境内といえども例外
としない。しかしこれを規制することは難しい。写真9のゴ
ミ回収ステーションも同様であり、参詣や参詣道ならびに
それらに連なる道路など、主要な景観をなす街路だけでも
これを回避する工夫が求められる。

1) 橋本道一: 『中世の町並み』 島岡出版 1989
2) 島村翠: 『中世の町並み』 島岡出版 1999
3) 本稿は概ね「金沢市迎賓山崎寺群等史伝統的建造物群保存対策調査報告書」の記述
によっていているが一部、独自の解釈により書きあらためている。